

新渡戸記念館 建設構想

市民団体 札幌に23年完成目指す

札幌農学校(現北海道大)の2期生で、国際連盟事務次長を務めた新渡戸稲造(1862〜1933年)の記念館を札幌市内に建設する構想が進んでいる。主体は一般社団法人「新渡戸稲造と札幌遠友夜学校を考える会」(松井博和理事長)で、2023年の完成を目指している。

新渡戸は盛岡生まれ。札幌877〜81年のほか、開拓幌農学校に在籍していた1史御用掛や札幌農学校教授

を務めた期間も含め、計12年間を札幌で過ごした。その間の94年に私財を投じて「札幌遠友夜学校」を開設。教育機会に恵まれな子どもや大人を無償で受け入れ、農学校の学生たちがボランティアで教員を務めた。全国に先駆けて創

設された生涯教育施設だったが、半世紀後の1944年に閉校。跡地(同市中央区南4東4)に建設された市中央勤労青少年ホーム内には、遠友夜学校記念室が設けられていたが、同ホームは2011年に解体され、15年に「新渡戸稲造記念公園」となった。園内には、1979年に設置された新渡戸夫妻の顕彰碑が立っている。

「考える会」は、この地に遠友会の精神を受け継ぐ記念館を建設することなどを

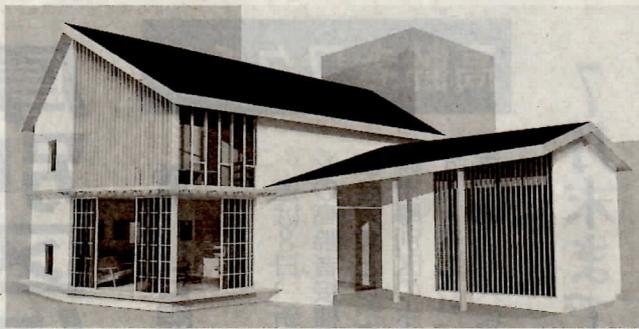
目指し、市民有志らによって13年に設立された。記念館は、同公園の一角、約250平方メートルの敷地に2階建てで建設する予定だ。

記念館の目的は①市民の生涯学習と憩いの場の提供

②国際的に活躍できる人材の育成③新渡戸と夜学校に関する資料の保存と研究普及―などで、資料展示や市民講座、子ども集会などのイベントを行う計画だ。建設費は寄付金などでまかなう予定で、目標は500万円。これまで約3450万円が集まっており、今後も、ふるさと納税に関連したクラウドファンディングや募金などで協力を求めていく方針だ。

松井理事長は「新渡戸の志を踏まえ、SDGs(持続可能な開発目標)の実現にリーダースhipを発揮できる人材を育てたい」と支援を呼びかけている。

問い合わせは、考える会 (info@nitobe-enyu.org)。



夜学校創設の構想を持っていた頃(1891年頃)の新渡戸稲造。右は妻のメアリ(北海道大学大学文書館蔵)

札幌遠友夜学校記念館の完成イメージ図。1階に展示室や多目的ホール、2階に図書室などが整備される予定だ。©Naomi Darling Architecture, LLC